

敦煌寫本研究年報

高田時雄 主編

第九號

2015年3月

京都大學人文科學研究所

中國中世寫本研究班

注 記

本誌『敦煌寫本研究年報』は京都大學人文科學研究所の共同研究「中國中世寫本研究」班の研究報告である。研究班自體は編者が2014年3月に退職したことにより、その公的活動を終了したが、同年8月に開催した中國中世寫本に關わる研究大會において發表された論文を主として本號を構成した。本號はまた編者が研究代表者をつとめる日本學術振興會科學研究費基盤研究(A)「中國典籍日本古寫本の研究」の成果の一部である。

目次

日藏敦煌遺書の來源と眞偽問題 高田時雄	1
佛教儀禮の構造と文體 荒見泰史	19
五月一日經『寶雨經』餘滴 大西磨希子	39
『文場秀句』補説	
『敦煌秘笈』羽 072 と『和漢朗詠集私注』 永田知之	57
Φ96「雙恩記」寫本の基礎的研究	
特に各卷の寫本の相違に着目して 高井龍	73
敦煌發見の書簡文に見える「諮」	
羽 071「太太與阿耶、阿叔書」の書式に關聯して 山本孝子	93
道液維摩疏の受容を示す一寫本	
羽 094R と北大藏 D245 について 佐藤礼子	111
從中原到敦煌 《秦婦吟》傳播原委新探 田衛衛	131
日本傳存『王勃集』殘卷景印覺書 道坂昭廣	147
敦煌莫高窟とT型題字枠再論 岩尾一史	163

〔敦煌寫本研究年報 第九號〕

2015年3月31日發行

編者 高田時雄

發行者 京都大學人文科學研究所
「中國中世寫本研究班」

〒606-8265 京都市左京區北白川東小倉町47

Phone 075-753-6993 Fax 075-753-6999

ISSN 1882-1626